

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	菜の花 東苗穂館1F	評価実施年月日	平成20年11月1日
評価実施構成員氏名	山田 智恵子、窪田 千春、植田 志津子 平原 敦子、、見神 規子、濱田 一延		
記録者氏名	山田 智恵子	記録年月日	平成20年12月25日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>「地域とのふれ合いを大切にしたり暮らし」「住み慣れた地域での生活を笑顔で送れるよう支援します」の理念を作りホーム内に掲示している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>名札の裏側に入れていつでも確認出来るようにしている。スタッフルームに理念を掲示して朝の申し送り時確認している。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたり理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族様にも見えるよう玄関に掲示している。また、菜の花新聞にも記載して。また、運営推進会議等で地域の方々にもホーム理念について説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>町内会の行事にもご利用様と積極的に出席している。花壇整備やリサイクルにも参加している。廃油・牛乳パック回収に協力している。</p>	○	町内会の方々にも気軽に立ち寄っていただけるように努めていきたい
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>ご利用様と町内福祉交流会・町内の防火訓練にも参加している。老人クラブより道具を借りてレクリエーションを楽しませていた。その時には老人クラブ会長も来て下さりゲームに参加して頂いた。</p>	○	今年度は夏祭りが行えなかったが、来年度は地域のグループホームと協力して夏祭りを行いたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>子供110番の相談窓口になっている。町内会の親睦会等にご利用様と一緒に出席している。その際、介護について気軽に相談して下さいと話させて頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフに自己評価を配布し、全員が記入、その後スタッフと話し合い自己評価に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開き、町内会・包括支援センター・ご家族様・ご利用者様からも意見を頂きサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険事業指導係に制度上の疑問点を聞いたり、提出書類等について相談する等、連携を図っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>介護部長がアドバイザーになり、権利擁護に関する制度について勉強している。また、管理者や職員も外部研修に参加し学んでいる。ご家族様より問い合わせがある時は、即対応している。成年後見制度を活用しているご利用者様もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待についての研修を受講している。ホーム内では虐待・拘束は一切ない。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>本社職員と一緒にご利用者様、ご家族が納得していただけるよう説明している。解約する際にもご家族様と充分話し合い納得して頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様の意見・不満・苦情については、申し送り・カンファレンスで改善に向け話し合い、日々のケアに活かしている。ご家族様にも、相談・協力をお願いしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が来館された時、健康状態・近況報告をしている。また病院受診結果等については、電話にて連絡をしている。菜の花新聞を発行して行事等を知らせている。個人出納簿で出・入金の内容を毎月ご家族様に郵送している。職員の異動については菜の花新聞にて報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催、アンケートBOXの設置などで意見、不満等を表せる機会を設けている。また、苦情についてはカンファレンス等で検討、本社にも伝え早急な対応と改善に努めている。ご家族様代表に運営推進会議へ出席して頂き意見を聞いている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスを行いスタッフの意見・要望を聞き検討している。2ヶ月に1回管理者会議やリーダー会議があるので職員の意見や提案を聞く機会が設けられ反映されている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ご利用者様の状況・体調・レクリエーション等に必要な時間帯に職員が確保出来るよう勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新人職員はご利用者様に紹介し、早く馴染みの関係になれるようにしている。新人職員はご利用者様よりホームの事を教えてもらう事もある。異動等やむおえない時にはご利用者様について引継ぎを十分にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護部長によるスタッフ研修、新人研修、認知症介護について等が実施されている。外部研修(実践者研修、レベルアップ研修等)にも可能な限り参加出来るように運営者は取り組んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区の運営者会議に出席し、他のホーム管理者・職員との交流をしている。また、他のホームをご利用様と見学させて頂いている。近くのホームと共同で夏祭り等が開催されるよう検討中。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩がゆっくり取れるようスタッフルームがある。職員を観察しストレスを感じているようであれば話を聴いたり、声掛けしている。不定期ではあるが気分転換を図れる機会を作るため食事会を実施している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>時給等資格に応じて昇給などがある。資格取得に対し出来るだけ対応出来るよう支援している。運営者、介護部長が現場に来て職員の業務成果を把握し必要であれば個人面接も行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご本人様と面談、意向や不安などを聴取し気軽に話せる雰囲気を作っている。グループホームに来て頂きご利用者様と一緒に食事をされ納得されてから入居されるよう支援している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族様から意向、体験、苦勞、不安等を傾聴し安心して生活して頂けるよう努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族からの相談を受け止め必要に応じてサービスを考えている。早急に対応が必要な事があれば他の事業所等に紹介している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学にいらしてレクリエーションに参加したり、一緒に昼食や、おやつを食べてもらい、グループホームの雰囲気に慣れ親しんで頂けるように努めている。実際にグループホームに3～4回遊びに来てから入居されたご利用者様もいる。職員が自宅を訪問し、その方の部屋を見せていただきながら、なじみの関係を築けるよう努力している。実際に体験入居し納得されてから入居された方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人と喜怒哀楽を共有し掃除、調理、味付け、畑作業、裁縫等ご利用者様より教えて頂く事が多い。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と連携を密にして、ご利用者様の日常生活については面会時や電話にて報告させて頂き情報を共有している。レクリエーション、外出行事の際ご家族様も参加して頂き喜怒哀楽を共にしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日頃より面会時に報告したり、写真などによりご本人の表情をご家族に見ていただき、ご家族とご本人との会話及び関係を築いている。誕生会や行事にご家族様も参加出来るようよう連絡し出席して頂いている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と馴染みの方の家に出掛けられている。ご近所の方も訪問されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様同士で人間関係を築き、居室に訪問され会話を楽しまれている方もいる。また、会話ができるようスタッフが調整役となる事もある。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても菜の花東苗穂館との関係は継続されており、いつでも相談に応じさせて頂く事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活シート、フェイスシートなどを活用し日々の生活の関わりの中でご本人の言動、行動、表情等から希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族様に聞いたり、ご本人の日頃の様子を観察し検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時ご家族様にセンター方式Aシートを記入して頂いている。ご本人、ご家族様より生活歴、サービス利用などを聞き取りしている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式でアセスメントをし「出来る事」「出来ない事」を把握し、その方の生活リズム。心身の状態、有する力などを把握するよう努めている。	○	出来そうな事にさらに挑戦していけるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族様、ご利用者様の意向を聞き、更に職員全員でアセスメント、モニタリングを実施、課題、改善点があればカンファレンス等で話し合いをして介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヵ月毎に評価、見直しを行っているが状態に変化があった時や退院後等には、期間を待たずに見直しを行い現状に即した新たな介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝・夕の申し送りや個人記録に記録されている身体状況や生活の様子など情報を共有し、介護計画や実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診予定日以外であっても通院、送迎に柔軟に対応している。外出レクリエーションには本社より職員が来てリフト車の運転をしてくれる。医療連携加算を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの協力によりカラオケ大会を実施した。消防署の協力により防災訓練が行われている。町内会の協力のもと避難訓練などを行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望により月1回の訪問理美容サービスを利用している。週3回の訪問リハビリを利用されている方もいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して頂き、地域の情報交換や協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力医、及び訪問診療に関しては2週間毎に往診してくれている。医師と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当医と連携を取りながら指示、助言を受けながら支援している。認知症専門医の受診が必要な時には担当医より紹介状を書いていただき、専門医を受診している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回訪問看護師が来てご利用様の健康管理、介護職員からの相談にも乗ってもらっている。ご利用様の状態悪化に応じて電話でも訪問看護師に相談、指示を受けている。時にはホームに来てくださることもある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご本人の情報を病院に提供し、ご家族様とも情報交換しながら回復状況などを話し合っている。担当医からの病状説明もご家族様と共に聞き、早期退院に向け担当医と情報交換している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した時の対応指針の同意書を頂いている。ご利用者様の病状により、ご家族様、担当医と十分に話し合い方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者様が終末期までにホームで暮らしていけるよう、ご家族様、訪問看護師、担当医と連絡を取り合いホームとして出来る事、出来ない事も含め相談している。	○	終末期の受け入れは24時間対応の医療体制、スタッフの研修、環境等多くの課題があり今後検討、対応して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメント、ケアプラン、日々の生活情報や支援状況など必要な情報は渡し、口答でも情報交換をしている。(プライバシーに配慮している)</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員はご利用者様に関することについてはご家族様だけに話している。他者に他言しないことを厳守している。入職時、個人情報の守秘義務について契約書を取り交わしている。退職後も他に漏らさないように日々伝えている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の能力に合わせご自分で決定出来るよう配慮している。また更衣時には何点か見てもらい、ご自分で決めていただいている。意思表示の困難なご利用者様には表情、サインからくみ取りご利用者様が決められるよう努めている。外食などについても事前にメニューを見て選んでいただいている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>体調を考慮し、自室で休んだりリビングソファーに横になったり、和室で休まれたり、その方の普段の行動に合わせている。ご利用者様のペースにあわせて朝寝坊をしたり、ゆっくり食事をしたり、夜遅くまでテレビを見たり新聞を読んだり希望に沿った支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご利用者様のなじみの美容院へ行ってカット、毛染めをしている方もいる。またお化粧品をしたり、高価な指輪なども付けている方もいらっしゃる。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>栄養士がバランスの取れた献立を立てている。ご利用者様が得意な事(皮むき、ごぼうのさがき、野菜を切るなど)を手伝って頂いたり、味見をしていただいたり、洗い物等スタッフと共に行っている。またスタッフもテーブルにつき一緒に食事を頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者様でタバコについてはドクターストップがかかっている方、そのほかの方は喫煙の習慣はない。お酒を晩酌する方もいない。ご利用者様の好物は把握しており、おやつ時に提供している。また手作りのおやつをご利用者様と共に作って食べている。また、その季節に合ったおやつも作るよう心掛けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄については排泄チェック表を活用し、トイレ誘導し排泄して頂けるよう支援している。ご利用者様の中には言葉ではなくシグナルサインがあった時に速やかに対応している。日中失禁の回数が減少したり、全く失禁がなくなったご利用者様もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時にはゆっくりと入浴を楽しんでいただいたり、スタッフとの会話をしながら入浴している。洗身はご本人の納得するまで洗っていただいている。季節の節目には、しょうぶ湯、ゆず湯などを楽しんでいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間安眠が出来るよう、日中は体操、レクリエーションに参加していただき体を動かすよう支援している。日中リビング、廊下の窓辺のソファーに横になっているご利用者様もいる。自室でうたたねされている方もいる。眠れない時には暖かい飲み物を提供して眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者様に出来る事、掃除、洗濯干し、洗濯物たたみ、盛り付け、調理のお手伝い等をして頂いている。外出、外食についてもご利用者様からの要望を聞きながら実施している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様と相談し紛失しても良い金額を所持している方もいる。職員と共に買い物に行きご利用者様にお金を払っていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	あたたかくなり天候の良い日は畑に出て草取りや収穫をして楽しんでいる。また庭の花を見に行ったり、外に出て日光浴なども実施し、出きる限り外に出掛けられるよう支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事でご家族様と一緒に外に出掛けている。外出はモエレ沼公園、百合が原公園、バイキングなどに外出支援をしている。またご家族様と温泉に行かれたり、バラの花を見にドライブなどに行かれるご利用者様もいる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様が電話をしたいとの申し出があった時にはすみやかに対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様やお友達の方が気軽に訪問できる雰囲気作りに心がけている。面会時間は決めず、ご家族様の都合の良い時にきて頂いている。訪問時にはゆっくりお話が出来るよう飲み物をお出ししている。また居室で一緒に食事をされている方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。社内研修で拘束防止の研修を全職員が受けている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に鍵を掛ける事なく介護に取り組んでいる。スタッフ間で連携を取りご利用者様の表情、サイン、行動を観察し見守りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士が協力し合いながら行動を把握し居室で過ごされる時には居室を訪問し声を掛けている。夜間帯は全員の状況を把握し起きられた時には迅速に対応出来るよう居室が見渡せるフロアで待機している。フラツキのある方には手引き誘導を日中・夜間帯共に行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品は危険防止のため保管場所に鍵をかけている。薬等についてはスタッフルームに保管施錠している。針、はさみについては使用して頂くが、その後確認している。個人の洗顔石鹸、歯磨き粉等日常的に使用する物は個々の状態に応じて対応している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の為のマニュアルを作成している。さらに本社研修で事故防止の研修を行っている。ひやりはっと、インシデントレポートの報告があった際スタッフ全員で検討、原因をさぐり再発防止に努めている。夜間帯は頻回に巡回しご利用者様の状況にあった待機場所にいるようにしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成、目に付く場所に掲示している。救急救命士の指導を受けているスタッフもいる。	○	全ての職員が応急手当が出来るよう定期的に研修やイメージトレーニングを行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練をしている。防火マニュアルに沿って日中、夜間を想定した訓練で避難場所、方法を理解するようにしている。運営推進会議を通じて災害時等に近隣の方々が協力して頂ける様になっている。連絡網を町内会に渡している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々に起こりうるリスクと対応策について、ご家族様と検討、了解を得ていただくようにしている。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握しバイタル的には変化が無くても、日々の様子観察によって変化が見られた時には記録し、職員間で情報を共有し、異変時は訪問看護師やかかりつけ病院に迅速に連絡し指示を受けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の内容は医療機関と薬局の薬剤師に確認。また薬剤師より届けられた時には副作用、用法、用量について説明もあり不明な時には電話確認している。処方薬の内容は個人記録にファイルし見やすくしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個人排便記録を作成している。ご利用者様の排便状態を把握し下剤調整、水分を多めにまた雑穀米を入れ食べていただいている。便秘の方にはヨーグルト、バナナなどにて対応したり、腹部マッサージや廊下歩行を行って体操に参加して頂いている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアについてはご利用者様にあった支援をしている。入れ歯は週2回ポリドントにつけている。訪問歯科との連携によりブラッシング、注意点について指導を受け不明な点についてはその場で聞いている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は毎日飲まれた量を集計し記録している。飲水量が少なければ飲んで頂けるよう工夫している。食事が少ない方は好物を食べて頂いたり栄養補助食品を使用している。栄養士によるカロリー計算された献立を基本としているが糖尿病、肝臓病の方については病院より食事指導を受け更に栄養士のアドバイスも受け食事療法をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成して。インフルエンザワクチンをご利用者様と全職員が接種している。スタッフ、ご利用者様、ご家族様の来館時には手洗い、うがいの徹底。更に温度調整、次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ、手すり、トイレ、洗面所等の消毒清掃も行っている。またペーパータオルを使用している。ノロウイルス、インフルエンザ流行期間はマニュアル通り実施しているか介護部長がチェックしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は毎回使用後に消毒を行っている。賞味期限、消費期限の早い物から使用するようになっている。食材の入荷時には日付を記入し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には花壇を設置。近隣の方々に分かりやすい表札を設置している。更に廊下には職員の顔写真入りのプレートも掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった装飾を行っている。ご利用者様が喜ばれる行事の写真や手作りした物などを飾り落ち着いて生活できるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファを設置、廊下にはベンチ、台所横には椅子、廊下の窓辺にはソファと椅子を置きそれぞれの利用者様同士がくつろげるスペースを作っている。更に小上がり(たたみ)で敷布団をひいて昼寝をされている方もいる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使用していた馴染物(大正琴、鏡台、ベット、テーブル等)を持って来て頂いている。居室に以前写されたご家族の写真を持ってこられている方もいらっしゃる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	清掃中は窓を開け換気に努めている。トイレは換気扇を使用し窓を開け換気もしている。温度計、湿度計を見ながら加湿器を設置し洗濯物や濡れタオルを利用し湿度を適度に保つようになっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーとなっている。廊下、トイレ、浴室に手すりがあり、トイレは広く車椅子対応で安全に生活できるように工夫され自立した生活ができるよう支援している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人が分かる事には自主的に参加して頂き、混乱が生じた時には職員が不安を軽減出来るように、さりげなく対応している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ご利用者様と一緒に草花の種を買いに行き、庭に花を植えた。また町内会より頂いた花の苗をご利用者様と植えたり、畑を作り草取りや野菜を収穫し楽しんでいる。天候の良い日には日光浴を兼ねて玄関先の広いスペースにテーブルを置き、お茶やおやつを食べ全員で楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <del>利用者の2/3くらい</del></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>毎日ある</u></li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <del>利用者の2/3くらい</del></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② <del>利用者の2/3くらい</del></li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ <del>利用者の1/3くらい</del></li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <del>ほぼ全ての利用者</del></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <del>ほぼ全ての利用者</del></li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② <del>家族の2/3くらい</del></li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ <u>たまに</u></li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②<u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②<u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②<u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②<u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

季節毎の行事(しょうぶ湯、七夕、お月見等)を行ってる。又桜餅、おはぎなどもご利用様に作っていただき、それを食べている。畑の草取りをしたり、町内会の行事等にもご利用者様と参加し、徐々に地域に根ざしはじめています。